

平成 30(2018)年度 東京都福祉サービス第三者評価

# 評価結果報告書

評価対象事業所 (サービス種別)	メリーポピンス赤羽ルーム (東京都認証保育所)
評価実施期間	平成30年12月13日~平成31年3月25日

評価機関: 合同会社フェアリンク

(東京都認証番号: 機構 12-213)

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)都会の中で、たくさんの自然と触れ合う。戸外遊びを大切にしている。 2)地域交流を通して、様々な人と出会い、コミュニケーションを大切にしている。 3)食育。自分たちで作った野菜を食べることで、食べる意欲を育てる。 4)薄着推奨。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 意識向上の意欲(スキルアップ)</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 自己健康管理、責任感、研修受講意欲</p>

調査対象	アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。		
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。		
利用者総数	30		
利用者家族総数(世帯)	28		
共通評価項目による調査対象者数	28		
共通評価項目による調査の有効回答者数	13		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	46.4		

**利用者調査全体のコメント**

共通評価項目に加え、園に対する総合的な感想を5段階で尋ねたところ、最上位の「とても満足」が8人(61.5%)、続く「満足」が4人(30.8%)、以下、「どちらとも言えない」、「不満」がいずれも0人、「大変不満」が1人という結果だった。保護者の満足度は概ね高い水準にあると推測される。各共通評価項目に対し、肯定的な回答(「はい」)の割合が8割以上に達した項目が全17問中9問と半数以上を占め、中でも問1(園での活動による子どもの心身の発達)、問4(戸外活動や行事等による自然や社会と関わる機会)では回答者の全員が「はい」と回答している。一方、問6(安全対策)と問9(園内の清潔や整理整頓)では「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を併せた割合がいずれも約3割に上っている。利用者調査の一環として、担当評価者2名で、午前中の戸外保育や子どもと同じ献立の給食を試食しながら食事の場を観察した。9時過ぎには子どもたちが散歩に出発して大型遊具のある公園までしっかり歩く様子や、旺盛な食欲で食事を何度もおかわりする子どもの姿などが確認できた。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
実際の調査票の質問文(以下、Q):園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	2	0	0
Q:園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	12	1	0	0
Q:園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	13	0	0	0
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	6	3	0	4
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	8	3	1	1
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	11	2	0	0
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	1	1
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	4	0	0
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	0	1	0
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	1	1	1
Q:子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	10	0	0	3
Q:子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	0	1	0
Q:あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	9	0	0	4
Q:あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	12	0	1	0
Q:お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	1	1	3
Q:あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	2	1	4
Q:あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	<b>施設長は園の職務分担に基づき、運営責任者としてリーダーシップを発揮している</b> 当事業所の運営主体である社会福祉法人を中核として関連法人が一つのグループを形成し、共通の理念・方針のもとで事業を展開している。一体的な管理体制のもと、本社事業部がエリアごとに各事業所の運営をサポートしている。施設長は園の職務分担に基づき、運営責任者としてリーダーシップを発揮している。事業規模の面から施設長の目の行き届く範囲にあって、一人ひとりの子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握がなされ、職員に対する指示が適宜行われている。日々の業務に追われる中で、課題解決に向けた計画的な取り組みの推進が期待される。	
	<b>法人全体として、施設長の管理能力の向上を目指した計画的な研修を実施している</b> 施設長には日常の保育に関する事項や法人が設定した予算の範囲内で自園の経費をコントロールする権限が与えられている。法人全体として現場のトップである施設長の育成に力を入れて取り組んでおり、年間の研修計画に基づき、毎月、人材マネジメントと保育の質のそれぞれのカテゴリごとにテーマを設定して、同一エリア内の事業所の施設長が学びを共有している。研修の講師は法人役員の他、本社の管理職と施設長が交代しながら務めており、各事業所の主任クラスの職員による横断的な会議との連動を意識したカリキュラムを策定している。	
	<b>年2回の懇談会及び運営委員会で、保護者に対する報告と要望等の把握をおこなっている</b> 年2回、保護者懇談会と運営委員会を平日の夕方、同日に開催している。懇談会には毎回保護者の3分の2程度が参加し、職員から保育の状況等について報告するとともに、保護者が普段感じている園に対する疑問や要望等に応えている。また、子育てに関する保護者の悩み等を語り合う場面を設けるようにしている。運営委員会には各クラスの代表の保護者、事業所から施設長及び本社スタッフ、部委員として同じ法人の系列園の施設長が参加し、保護者からの要望等の把握を中心に意見交換をおこなっている。その議事内容を保護者及び職員に開示している。	

2			カテゴリ-2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行					
サブカテゴリ-1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している					
評点(000000)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している					
評点(000)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる					
評点(00)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○非該当

カテゴリー2の講評

毎年のアンケートで保護者の意向を把握するとともに、地域の情報収集にあたっている

法人のマネジメントシステムにおいて、保育サービスに関連する法制度についての情報収集は施設長の役割となっているが、実際には本社が中心となって関連する法制度の改正や社会・経済環境の変化、業界の動向等に関する情報の収集を行い、幹部会議における分析結果を毎月の施設長会議や研修等の場で職員に伝えている。園では、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、年1回のアンケートを通じて保護者の意向を集約している。また、区内の認証保育園の園長会等に参加し、地域の情報収集にあたっている。

年度事業計画の進捗管理や達成状況の検証がしやすい形で展開することが期待される

法人の要求事項に沿って、単年度の事業計画及び3か年計画を具体化しているものの、3年後のビジョンから当年度の計画をブレイクダウンする流れにはなっていない。また、年度予算は本社主導で編成しているが、事業計画との関連については必ずしも明確とは言えない。さらに、事業計画の中身が抽象的な内容にとどまっている部分があり、進捗管理や達成状況の検証を難しくしている。現状と目指す姿のギャップを明確にしたうえで、それを埋める具体的な道筋や方法を計画に展開するとともに、達成基準となる指標の明確化に向けた検討が期待される。

年度末における事業計画の振り返りの結果を次年度の計画につなげることが期待される

年度末の職員会議で当年度の事業計画に対する取り組みを振り返り、次年度に向けての課題を洗い出すとともに、業務分担を年間のスケジュールに落とし込む形で編成している。しかし、次年度の事業計画において課題解決の対策が十分に展開されているとはいえず、今後の改善が望まれる。施設長に対する目標管理制度では、主に事業所全体が設定され、半年ごとに達成状況を確認している。今後、事業所の目標と連鎖する形で職員一人ひとりの目標を設定する仕組みを整え、事業所全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高めることが期待される。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

2/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

## サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

5/5

## 評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

## 評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

## カテゴリー3の講評

法令に則った運営を行っているかを法人本部が管理する仕組みを整えている

本社にコンプライアンス担当を置き、各事業所におけるサービス提供体制等について、法令の要件を満たしているかを一元的に管理する仕組みを整えるとともに、3か月ごとに独自の検査項目に沿って内部監査を実施している。また、法人全体として、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。系列の保育園の運営等に関して平成29年3月に某出版社が掲載した記事に対しては、法人側が損害賠償を求めて訴訟を起し、平成31年2月に東京地裁より賠償を認める判決が下された。

虐待防止に向けて組織の内外で情報を共有し、予防と早期対応に取り組んでいる

家庭での子どもの虐待が疑われる場合は、法人役員の指示に基づき、公的機関と連携して対応する体制を整えている。また、他の職員による不適切な対応を発見した場合等も想定して、法人役員及び外部の弁護士事務所を窓口とする内部通報制度を設け、虐待防止に努めている。保育室は仕切りのないオープンなスペースにしており、特に年度後半は縦割り保育を基本として、戸外保育を含め、常に複数の職員の前で子どもを見守る環境がある。職員相互の気づきを共有しやすいメリットを保育の向上にどのように活かしていくか、組織内のさらなる検討が期待される。

地域の子育て支援拠点として、子育て家庭を支え、交流を推進する活動を展開している

地域に根ざし、地域の発展に貢献できる子育て支援を目指すとの法人の方針を受け、年間計画に沿って、各園で地域支援活動を展開している。当事業所では、地域の子育て家庭を園に招いて、親子と一緒に楽しめる遊びを紹介したり、保育園の生活を体験してもらう企画を毎月1回、土曜日に実施している。その中で、個別の育児相談にも対応するとともに、親子同士の自然な交流につながることを意図して取り組みを進めており、活動の予定や毎回の様子を知らせる通信を発行して、参加者をはじめ、地域の関係者・関係機関に配布している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 1/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(●●●●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
○あり ●なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>災害発生等のリスクを評価し、その軽減に向けた組織的な対策を講じることが期待される</p> <p>法人として職員の離職を最大のリスクと位置づけ、その防止に向けた研修やキャリア形成の支援等に力を入れている。また、活動中の事故や子どものけがを防止するため、事故及び事故の危険に直面した職員が、その状況等を書面にまとめて報告し、全体で情報共有している。園では、感染症の発生・拡大を防ぐための衛生管理の徹底に努め、流行のシーズンを迎える前に衛生用品一式を用意し、それを使った汚物処理の実演をおこなっている。水害の危険区域に入っていることから、災害発生時の子どもの安全な避難に向けた対策を講じることが期待される。</p> <p>法人全体で組織内外の事故事例等の情報を共有し、子どもの安全確保に努めている</p> <p>子どもが自然体験を始めとする様々な経験を通じて自分で考え、行動する力を育成することを法人の保育理念に掲げる一方で、安全管理にも力を入れ、日常の保育環境に潜む危険に対するアンテナを高めるための職員研修の実施や法人の職員向け通信に他の事業所で実際に起きた事故事例を掲載するなど啓発に努めている。また、子どもに対する虐待のリスクを常に認識したうえで、法人内部の報告体制と内部通報の仕組みを整備するとともに、迅速な対応を可能とする関係機関との連携体制の構築に努めている。</p> <p>利用者の個人情報の保護の仕組みと情報を共有し活用するための統一ルールを整えている</p> <p>利用契約を結ぶ時点で、利用者から預かる個人情報の使用目的や使用の条件等を文書で提示し、保護者の同意を求めている。職務上、利用者の個人情報を知り得る立場にある職員や実習生には、退職後または実習終了後も外部に漏らさないことを誓約した文書への署名・提出を義務付けている。また、事務室内に鍵付き保管庫を設置し、個人情報を含む書類を分類・整理して保管している。組織内で共有することを目的に収集・蓄積している情報は法人のルールに従ってファイリングし、パソコン内またはキャビネットの所定の場所に保管して、職員に周知している。</p>		

5			カテゴリ-5		
5			職員と組織の能力向上		
			サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		
			12/12		
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
			評点(〇〇)		
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし		2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
			評点(〇〇)		
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし		2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
			評点(〇〇〇〇)		
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし		2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし		3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし		4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
			評点(〇〇〇〇)		
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし		2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし		3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし		4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当

## サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

## 評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

## カテゴリ-5の講評

## 法人が期待する人材像を明示し、スケールメリットを活かして職員の確保に努めている

法人として期待する人材像を明示し、共通の目標に向けたミッションとその実現に必要な能力等を定義して、入職時に職員に説明している。職員の確保と定着を最重要課題に据え、本社が一括して採用をおこなっている。選考にあたっては法人理念に対する共感を重視している。当事業所では現在、法的に認められた範囲内で利用定員を超える人数の子どもを受け入れており、保育士を募集しているものの、今のところ応募がなく、系列園からの職員の応援により調整している。法人のスケールメリットが活かされているとは言え、望ましい状態の回復が期待される。

## 組織の活性化に向け、職員体制の安定化と労働環境の改善を図ることが期待される

職員のモチベーションを高めるために、全社的な業務改善のプロジェクトに職員の主体的な参加を呼びかけ、現場からのアイデアや提案を積極的に取り入れている。また、職員に期待する能力やマインドについて、定着の度合いを所定の項目ごとに評価し、その結果を集計して昇給や賞与、昇格等に反映している。当事業所では、職員のプロ意識と組織人としてのモラルを高め、組織のより一層の活性化を通じて、サービスのさらなる向上につなげることを課題に据えている。そのためにも、本社と連携して職員体制の安定化と労働環境の改善を図ることが期待される。

## 職員の主体的な学びを促す仕組みを整えるとともに、専門職同士の連携強化を図っている

法人として階層別の内部研修の体系を整備するとともに、本社の管理部門が職員一人ひとりの学習ニーズを把握し、それにかなった外部研修を個別に案内して、受講を促している。施設長に対しては上司である本社の管理職との面接を通じて個別の目標と具体策を定め、達成状況を本人と上司の双方で評価して、面接ですり合わせをおこなっている。保育士以外の調理スタッフ等の専門職が各事業所に単独で配属されることが多いため、事業所を横断した各専門職の部会を組織し、それぞれ定期的にミーティングを開いて、研修や情報交換の機会を設けている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

法人の理念・方針に基づき、「自然の中でたくさん遊び、原体験をする」ことと「物おじせず誰とでも目を見て話ができる」ことを園の保育目標に据え、乳幼児期のうちから戸外遊びを日常化することと、地域をフィールドにした様々な人との交流や体験を重ねる活動に重点的に取り組んでいる。毎日、午前と午後近隣の公園等に散歩に出かけるとともに、毎週、園のバスに乗って郊外の系列園を訪れ、子どもが畑に出て土や野菜に触れる体験を味わっている。また、年間計画に基づき、子どもたちが週に一回、近隣の飲食店や郵便局、コンビニ、本屋など様々な店を訪れ、魚屋の店員が実際に魚をさばっている様子を見たり、八百屋で野菜を購入するなどの経験を重ねている。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人の方針に基づき、午前中の戸外活動に出発する時刻について、保護者の理解と協力を得ながら目標を9時と定め、それを前提とした職員の動きが意識とともに定着している。近隣の公園まであえて迂回ルートを経由して子どもの歩行距離を確保するとともに、大型遊具等を使った公園での遊びの時間も十分とって、子どもの体力と運動能力の向上につなげている。また、昨年度、目標に掲げながら訪問できなかった地域の高齢者施設に関して、今年度は職員がアポイントを取るための研修から始めて訪問を実現した。子どもたちが初めて会ったお年寄りの方たちの前で手遊びや歌などを披露し喜んでもらう体験を通じて、非認知能力の向上につながる取り組みとなった。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は子どもの保育環境の整備を重点課題の一つに据え、とりわけ乳幼児期の子どもの安心感を育む人的環境としての職員の言葉遣いや表情、子どもに対する声掛け等の改善に向け、会議での話し合いや職場研修等を通じて職員の意識変革に取り組んできた。また、子どもがいろいろなことに興味を持ち、自分のペースで考えて遊ぶことを目的として、室内環境の整備や手作り玩具の作成を進めてきた。しかし、一年間の取り組みに対する組織内の振り返りでは、子どもの発達を踏まえた環境設定に関する職員の知識不足に加え、モラル自体の低下が指摘されている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今回実施した利用者調査(保護者アンケート)では、職員の言葉遣いや身だしなみ、子ども一人ひとりに対する尊厳の尊重等に関する項目で保護者の評価が高く、園のサービスに対する総合的な満足度も高い状態にある。また、職員一人ひとりの自己評価の集計結果からは、現在の仕事に対し、職員の多くが意欲と働きがいを持って向き合っている様子がうかがえる。保育スタッフは非常勤職員を含め全員が有資格者で構成されており、利用者調査及び職員自己評価の結果からも、職員集団のポテンシャルは一定以上の水準にあると考えられる。昨年度の事業計画に謳った取り組みに対する事業所の振り返りでは、職員の知識やモラルに関する言及などシビアな評価が目立っているが、仮にそうした面が見られるとしたら、職員の意識の問題というよりは、むしろ労働環境や主体的な学びを深める機会としての外部研修の参加機会等、組織運営上の観点から原因を探ることが必要と思われる。いずれにしても、前年度の取り組みの振り返りにおいて洗い出された課題に対する方策が、当年度の事業計画の中で十分に展開されているとは言い難く、今後の改善に向けた検討が期待される。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>園のパンフレットやホームページで事業所の情報を提供し、見学に随時対応している</p> <p>区役所に園のパンフレットを置いている他、ホームページを通じて法人の保育方針や園の利用案内等の情報を提供している。見学の問い合わせに対しては、施設長と数人の職員が中心となって随時対応している。見学時間は登降園や子どもの午睡の時間帯を避けるために、基本的には午前10時から10時半の間で案内することが多いが、利用希望者の状況に応じて柔軟な対応に努めている。土曜日の見学も可能となっている。今年度リニューアルしたホームページの内容に関して、保護者の感想や意見等を集約し、今後の見直しに活かしていくことが期待される。</p> <p>利用希望者の見学の際に毎月の通信等を配布して、園の日常の様子を知らせている</p> <p>利用希望者から見学の問い合わせを受けると、予約表に見学者の氏名、連絡先、子どもの年齢等を記入し、現場の職員が確認ができるようにしている。見学の際は、園のパンフレットや保護者向けの毎月の通信(園だより、食育だより、保健だより)を配布し、園の概要や子どもたちの日常の様子を知らせている。案内用の印刷物には写真画像を多く取り込み、子どもの生き生きした活動の様子を伝える紙面構成に配慮している。見学対応は施設長と経験のある2人の職員で担当しているが、他の職員も一定程度の対応ができるよう、研修等の実施を検討している。</p> <p>利用定員に空きがない場合、希望者の住所地に近い同じ系列の他園を紹介することがある</p> <p>利用の希望を受けても定員に空きがなく、すぐに子どもをあずかることができない場合は、待機者リストに登録するかどうかを確認し、空きが生じた時点で、申し込み順に並んだリストの上位者から順次案内している。他の区市町村に居住地があり、保育施設の確保を急いでいるような場合は、近くにある同じ系列の他園を紹介することもある。</p>		

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
○非該当	
サブカテゴリー2の講評	
<b>利用契約の際に保護者と個別面談を行い、保育に必要な情報や要望を把握している</b> 利用契約の際に書面による重要事項等の説明と契約書類の取り交わしを行うとともに、保護者から保育に必要な情報の提供を受けている。子どもの食物アレルギーや健康状態を含め、子どもや家庭の状況について事前の記入を依頼した書類をもとに職員が個別の聞き取りをおこなっている。また、保護者が育児において気になっていることや保育に対する要望等を聞き取り、統一した記録用紙に記入して、職員間で共有している。	
<b>保護者の要望も踏まえ、子どもが園生活に慣れるための対応や情報提供に配慮している</b> 新入園の乳児には、なるべく特定の保育士が関わるようにし、子どもとの愛着関係を築く中で園の生活に慣れるよう配慮している。慣らし保育(慣れ保育)は基本的におこなっていないが、保護者の要望に応じて、一定期間、段階的に保育時間を延ばしていく場合もある。法人全体として保護者のお迎え時にその日の子どもの様子をていねいに伝える取り組みに力を入れるとともに、連絡帳に代わるスマホアプリを介した双方向の連絡ツールの活用により、子どもたちの園での様子を保護者が手元で確認できることで、保護者の不安の軽減につながっている面もある。	
<b>転園先への情報提供の他、サービス終了後も毎月の子育てサロンの案内を送っている</b> 転園等に際し、必要に応じて、子どもに対する配慮事項等を法人の所定の様式に記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する場もある。また、サービス終了後も、毎月実施している地域の子育て支援事業(子育てサロン)の案内を送り、子どもと一緒に園に遊びに来るように誘い掛けている。子どもが卒園した後も馴染みの場所に帰ってこられることが子どもと保護者の安心感につながっている面もあると思われる。	

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ3の講評

法人から示された全体的な計画と指導計画をもとに、園の保育計画を作成している

法人本部より毎年2月初めに次年度の全体的な計画と年間指導計画のひな型が各園に配信され、園の職員会議で当年度の取り組みの振り返りを基に次年度の計画を検討、作成する流れが明示されている。当事業所では、施設長の指導のもとで、各クラスの担任が月間及び週間の保育計画を前月の25日までに作成している。法人の方針を受けて異年齢保育を基本に据える中、日常の保育もクラスの垣根を超えて展開されており、計画作成の段階からクラス間の有機的な連携を図ることが期待される。

個別の保育計画と子どもの姿の変化等に関する記録のつながりを検証することが望まれる

各クラスの月間指導計画を踏まえて個別の月案または週・日案を作成し、日々の保育記録をもとに振り返りを行い、次期の計画につなげる仕組みを整えている。また、毎月すべての子どもの発達状況を児童票の項目に沿ってチェックするとともに、子どもの姿の変化等を個別に記録している。法人の方針のもと、保護者からの開示請求を前提に質の高い記録を残すことを目指しており、法人全体の研修等でスキルアップに取り組んでいる。今後、日々の記録が個々の保育のねらいに沿ったものになっているかを検証のうえ、さらなる改善につなげることが期待される。

日々のミーティング等で保護者からの連絡事項や子どもに関する情報の共有に努めている

7時から20時の開園時間の中で、保護者からの連絡事項や薬の預かり状況等を職員が所定のノートに随時書き込み、全員で確認できるようにするとともに、朝の活動開始時及び子どもの午睡時のミーティングで全体の申し送りをおこなっている。また、保護者から意見や要望を受けた場合は、その内容を職員が所定のシートに記入して施設長に提出し、園会議で検討する仕組みを整えている。各クラスの担任は毎月の園会議でクラスの状況と気になる子どもの様子等を報告し、園全体で情報の共有を図っている。

サブカテゴリ5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリ5の講評

保護者より個人情報の使用承諾を取るとともに、職員研修等を通じて周知を図っている

利用契約の際に、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、同意の署名をもらっている。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。

子どもの権利擁護の観点から子どもの意思の尊重と職員会議での情報共有に努めている

法人として、子どもを呼び捨てにしないことを徹底するとともに、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している。子ども同士のトラブルの際は互いの言い分を聞き、必要に応じて気持を代弁するなど、子どもが納得できるように仲裁に努めている。登園時間はある程度決められているものの、家庭の状況に応じて個別に話し合いを行い、柔軟に対応している。家庭での養育環境が気になる場合は、担任からの報告を受けて職員会議で情報を共有し、必要に応じて法人役員に報告・相談を行いながら関係機関と連携して対応する体制を整えている。

サブカテゴリ6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリ6の講評	
<b>国際的な品質管理の仕組みを基に、法人全体として業務の標準化に取り組んでいる</b> 法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準をクリアする取り組みを継続的にこなっており、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定めるチェック表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフィードバックして、振り返りの機会としている。チェック表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の姿勢を読み取ることができる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。	
<b>保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている</b> 法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて、素早く確認ができるように工夫しながら活用している。また、職員会議でイベントレーナーを使った研修をおこなっている他、緊急時の対応や通報のフローチャートを電話の近くに掲示して、職員による対応の標準化を図っている。	
<b>定期的実施している自己評価等の結果をマニュアルの見直しにつなげるのが望まれる</b> 法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かす仕組みを整えている。また、子どもに対する保育の具体的な場面で手本とすべき行動特性を法人として整理し、それを基にして職員が定期的な自己点検をおこなっている。今後は年1回の保護者アンケートと併せて、それらの結果を保育品質マニュアルの定期的な見直しに活かしていくことが期待される。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	
		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	32/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている		●非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達や生活状況を把握し、保育を行うようにしている</p> <p>子ども一人ひとりの状況については、日常的には連絡帳(アプリ使用)で様子が記録されている。保育日誌については個別の記録はないが、毎月、個々の発達の状況が項目ごとにチェックされ、職員会議の際に、一人ひとりの様子がまとめられている。ひと月ごとの個別の記録の項目は、「食事」「排泄」「その他」の3項目のみであり、子どもの状況を把握するためには生活の場面ごとの項目がさらに必要ではないかと考えられる。低年齢児の園ということもあり、個々の状況の把握はさらに丁寧にする必要があると思われる。</p> <p>子どもの主体性を大切に考えた環境を心掛けているが、さらなる工夫が期待される</p> <p>園では、子どもが自発的に遊べることを大切に考えている。子どもが自分の好きな玩具を出し、好きな場所で遊べるようにしているが、保育室はワンフロアであり、部屋を取り囲むように玩具の棚が配置されている。子どもは好きな玩具を持ち出し、どこでも好きな場所に移動しながら遊んでいるために、他児とぶつかったり、他児に邪魔されたりする場面も多く見られる。園では、保育環境を整え、子どもが安全かつ安心して遊べる空間をつくることを重点課題の一つに掲げており、子どもがじっくりと遊べる環境設定のさらなる工夫に期待したい。</p> <p>子どもの同士のトラブルについては子どもの気持ちに添った対応に努めている</p> <p>子ども同士のトラブルについては、職員が一方向的に判断して子どもに謝らせることを急がせたりするのではなく、双方の気持ちを聞き、代弁しながら、お互いが納得するように対応することを心掛けている。保護者に対しても、トラブルのあった時には職員が経過や子どもの気持ちを説明し、理解を得ている。年度当初の保護者会でも予め、発達の過程で起こるトラブルについて説明をしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>登園時には保護者と情報の共有に努め、保育に生かしている</b></p> <p>登園時には、早番担当の職員が保護者と挨拶を交わし、子どもの健康状態を保護者とともに確認し、子どもの受け入れをしている。保護者からの情報は朝会シートに記入され、8:50から9:00の職員の朝会で他の職員に伝達され、職員全員が共有している。朝会シートの項目は、体調の確認、薬について、今日の活動、伝達事項、職員配置、アレルギー食、その他となっている。保護者からの情報や園長からの報告事項は確実に職員に伝達されるが、子ども全員を前に職員が伝達をするので、朝会の方法は工夫が必要と思われる。</p> <p><b>基本的な生活習慣については保護者と連携を取りながら個々に合わせた支援に努めている</b></p> <p>低年齢児の園ということもあり、生活習慣については、トイレトレーニングや歯磨き、着脱衣等、子どもが身に付けていく重要な時期と捉え、家庭との連携を大切に考えている。個人差の大きい時期でもあり、特にトイレトレーニングでは1歳児クラスから始めることが多いが、家庭の状況と子どもの気持ちも受け止めながら、無理の無いように進めている。訪問時の際に子どもが食後の歯磨きをしていたが、椅子に座らせ、声掛けをしながら職員が一人ひとりに対応している様子が見られた。</p> <p><b>降園時には保護者一人ひとりに子どもの様子を伝えている</b></p> <p>子ども一人ひとりのその日の様子は、アプリを利用した連絡帳で、保護者には午後5時頃に届くようになっている。職員は、午前中の活動や、その日の食事、排泄、午睡、おやつなどの様子を子どもが寝ている間に連絡帳に打ち込み、園長が確認をして、17時頃配信されている。夕食を食べる子どもは、夕食を食べたのち19時頃に配信される。保護者は子どもを迎えに来る前にその日の様子を知ることができる仕組みになっている。遅番の担当職員は保護者に対するていねいな対応に努め、具体的なその日の様子や、クラス担当からの申し送り事項を伝えている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(○○○○○●)
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>様々な人との出会いの経験を通して人と関わる楽しさを感じられるように支援している</p> <p>園の方針の一つに「人間力」を育てるという事が挙げられている。異年齢が混ざり合って自主的に遊びながら、自らの意思で様々な年齢の子どもに関わる機会を多く持っている。近くの認可保育園の幼児と関わって遊ぶ機会もあり、また子どもだけでなく、老人施設等との関わりの機会も持ちながら、人のかかわりの楽しさを感じられるように努めている。散歩の最中では、職員が率先して行き会う人々に挨拶をし子どもたちにその姿を見せている様子が確認できた。</p> <p>日常の保育の中で子どもが様々な表現活動を楽しめるように配慮している</p> <p>毎月の計画に沿って様々な活動を取り入れており、園では特に戸外活動を重視しているがその他にリズム遊びなども取り入れている。園の紹介の動画にも映っているが、リズム遊びは毎日おこなっており、全園児がピアノの音を感じながら体で表現をしている。職員はリズム遊びの研修を受け、誰でも子どもへの指導ができるように努めている。毎月の歌も決まっており、朝の会などで職員とともに歌っている。制作活動は雨の日に行うことが多いが、絵を描いたり季節にちなんだものを作っている。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが楽しめる行事について、職員一人ひとりが企画を考え工夫をしている</p> <p>園では年間の計画に基づいて行事を実施している。職員一人ひとりが子どもに合った企画を考え、会議で検討し決定している。毎年同じ内容でなく、子どもに体験させたいことを意識して企画されている。今年度は5月に虫取り・土手滑り、6月は雨の日散歩、7月は野菜スタンプ・夕涼み会、8月は蝉取り・ボディペインティング、9月は泥あそび・運動会、10月はいもほり・ハロウィンツアー、11月は落ち葉プール・楽器作り、12月はクリスマス会、1月は正月あそび、2月は節分・生活発表会、3月はひな祭り・お別れ会等が企画され、実施されている。</p> <p>子どもと保護者が行事に楽しんで参加できるよう配慮している</p> <p>保護者参加の行事は、夕涼み会、運動会、生活発表会である。夕涼み会は平日の夕方に行われ、子どもが楽しめるゲームを職員が考え、子どもと保護者がお祭りの雰囲気味わえるものとなっている。運動会はいよいよ雨となり、室内での実施であったが、年齢別の子どもの競技や保護者参加の競技が行われた。生活発表会は、地域の会館を使用して行われ、いつもの保育の姿を保護者に見てもらった。0歳児は歌や手あそび、1歳児は名前を呼ばれての返事やリズムあそび、2歳児は桃太郎の劇ごっこ等を披露し、多くの保護者の参加があった。</p> <p>お知らせ等を通して行事への保護者の協力を得る努力をしている</p> <p>年間の行事予定は、年度当初に保護者に知らせており、毎月の園だよりでも詳しい日程を伝えている。園だよりでは、その月の行事や活動の予定を知らせるだけでなく、前月の活動や行事の様子を写真を交えて伝えている。保護者へは行事の参加を呼び掛けるだけでなく、ハロウィンの衣装の用意などの協力も依頼している。当日は子どもたちが様々な衣装を身につけて仮装し、商店街を回ることができた。ただし、一部の保護者に連絡が行き届かなかったとの指摘が今回の利用者調査に寄せられており、状況の確認と周知の徹底が望まれる。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもがストレスを感じずに過ごせる環境設定の工夫が期待される</p> <p>日頃から異年齢の集団で活動しており、職員は会議や申し送りを通じてクラスの枠を超えて子どもの情報把握に努めている。長時間に及ぶ保育で担当の職員が途中で代わっても、子どもたちは不安になることなく絵本を読んでもらったりしている姿が確認できた。ただし、ワンフロアの保育室で長時間過ごす中で、動と静の活動スペースを分けたり、延長保育の時間限定の玩具等の用意といった配慮は確認できなかった。今後、長時間を過ごす子どもがなるべくストレスを感じることなく生活できる環境設定のさらなる工夫に向けた検討が期待される。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(○○○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>法人で作成した献立をもとに子どもと家庭の状況を踏まえた食事の提供をおこなっている</b></p> <p>法人本部で作成した献立をもとに給食を提供している。園では給食会議を月に1回行い、食育活動の振り返りや献立に関する意見交換、次月の予定や行事食の検討の他、食物アレルギーのある子どもに対する献立の確認等をおこなっている。家庭で食べたことのある食材かどうかを事前に確認するとともに、離乳食の開始や進め方の段階等について保護者と連絡を取り合い、連携しながら、子どもと家庭の状況を踏まえた対応に努めている。行事の際の献立等においては園独自の工夫も見られ、毎月の誕生会では、おやつの際に手作りケーキ等が提供されている。</p> <p><b>畑やプランターでの野菜の収穫や簡単な調理等の活動を通して食への関心を育てている</b></p> <p>畑での土いじりやプランターでの野菜の栽培、収穫、簡単な調理を通して食育活動に取り組んでいる。年間の計画に基づき、畑仕事ではジャガイモやサツマイモの収穫をし、園のプランターではナスやきゅうり、ミニトマトを植え、収穫している。調理保育では、夏野菜カレーや秋のお月見団子、12月のクリスマスパフェ、1月には七草粥を作るなど季節感のある食育活動を行っている。また、給食に入っていた野菜を食べた後に自分のカードに野菜スタンプを押すなど、子どもが食に関心を持てる取り組みも行っている。</p> <p><b>子どもたちが落ち着いて食事のできる環境や提供方法等の検討が期待される</b></p> <p>園の保育室は、食事をする場所と午睡をする場所が分かれており、食事の場所にはテーブルが5台程度置かれている。子どもたち全員が同じ場所で食事をするようになっており、時間帯もほぼ同じになっている。滞在調査で食事の様子を観察した際は、子どもたちが食べている間、職員が入れ代わり立ち代わりテーブルの間を行き来したり、子どもに声かけする際の声量等、全体的に園が目指すゆったりと食事をする環境とは言い難い状況が確認された。今後、職員の動線や声のトーンの配慮の他、食事提供の方法についても、さらなる検討が期待される。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>日々の保育の中で、子どもが自分の健康やけがの予防に関心を持てるように支援している</b></p> <p>低年齢児の園であることから、子どもの健康や安全面については職員の意識や配慮がとりわけ重要となる。子どもへの声掛けや対応によって子どもの病気の予防につながることも多く、手洗いやうがい、歯磨きなど、職員とともに毎日行う中で、子どもが自分の健康について関心を持てるように働きかけをおこなっている。また、散歩での道の歩き方や公園での遊具の使い方など、その都度子どもへの声掛けを通して、安全な歩き方や遊び方に気づくことができるように支援している。</p> <p><b>専門機関と連携して子どもの健康支援や発達支援を行う仕組みがある</b></p> <p>入園前と年2回の健康診断の他、年1回の歯科検診を医療機関に委託して実施している。熱性けいれんのある子どもについては、医師の処方のもと、園でも薬を預かっている。また、食物アレルギーのある子どもに対応するためのエピペンの使用方法について園内研修をおこなっている。特別な配慮が必要な子どもが在籍している場合は、区からの巡回指導を受け、専門家によるアドバイスをもらいながら対応する仕組みがある。今後、消防署等が実施する救急救命講習の計画的な受講に向けた検討が期待される。</p> <p><b>保護者に子どもの健康支援や感染症の予防についての情報を提供している</b></p> <p>年間の保健計画に沿って、保健に関する活動や指導をおこなっている。毎月、保健だよりを発行し、その時季に流行る感染症についての説明や予防方法等を保護者に案内している。昨年12月号では、流行るインフルエンザの状況を案内するとともに、「インフルエンザにかからないために」という項目で予防方法を解説し、流行性の嘔吐下痢症の対応についても記載している。また、園で感染症が発症した際には法人役員に直ちに報告するとともに、口頭や掲示で保護者に迅速に伝え、拡大の予防に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者一人ひとりの事情や要望を受け止め、なるべく意向に沿うような支援に努めている</p> <p>入園当初の慣らし保育に関しては、保護者の要望に合わせて対応することや、個人面談の日程も保護者の希望を踏まえて調整している。また、保護者の保育参加も要望に応じておこなっている。昨年度の実績では、個人面談が7名、保育参加は1名であり、相談内容は主に離乳食や子どもの食物アレルギーについての相談であった。急な登降園の時間の変更や、その日の夕食の有無などに対しても、状況に応じて柔軟な対応に努めている。</p> <p>保護者会等の機会に相互交流を促すとともに、職員との間の信頼関係の構築に努めている</p> <p>行事や保護者会の機会を通じて保護者同士の交流の促進に努めている。保護者会では職員が一方的に話すのではなく、報告事項などが終わると、話題提供をするなどして、保護者同士が話し合えるように内容を工夫している。また、保護者と職員の交流は、行事や毎日の送迎の時が主であるが、本社の方針を受けて、特に日々の送迎時の対応を大切に考えている。保護者の夕方のお迎えの時間帯が集中するうえ、玄関が狭く、難しい面もあるが、職員は保護者との丁寧なコミュニケーションを通じて信頼関係の構築に努めている。</p> <p>保護者会や運営委員会、通信等により、保護者の理解を深める取り組みをおこなっている</p> <p>園の保育について保護者の理解を深めると同時に、保護者から意見を聴き、保育に反映するための機会として、保護者会や運営委員会を設けている。保護者会は年2回、平日の夕方に行われている。懇談会の後に運営委員会が行われ、保護者からの要望や意見を聴いている。運営委員会では、保護者から、都会では難しい自然体験ができ、喜んでいという意見や、行事の日程について配慮してほしいなどの意見が挙がっている。また、園だよりや食育だより、保健だより等の通信で園の活動を保護者に伝え、保育に対する理解につなげる取り組みをおこなっている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域に出て知らない人と交流する機会を持つ中で、子どもたちの経験を広げている</p> <p>法人の基本理念の一つである「人対人コミュニケーション」を踏まえ、戸外活動の際に園外で出会ったすべての人と挨拶を交わすことを園の約束としている。商店街ツアーでは地域のお店等を訪ね、知らない人と挨拶を交わし、仕事の内容を見せてもらったり話を聞くことで、園の保育目標である「物おじせずに誰とでも目を見て話ができる子ども」の育成に努めている。子どもたちは週に1度、飲食店や郵便局、コンビニ、本屋など様々な店を巡っている。魚屋で実際に魚をさばいている様子を見たり、八百屋で野菜を購入するなどの経験を重ねている。</p> <p>地域の様々な人々との交流を通じて、子どもの生活環境の広がりを支援している</p> <p>地域の保育園との交流を通じて、子ども同士と一緒に土手滑りをして遊ぶなどの機会を設けている。幅広い年齢の子どもと遊ぶ中で、子どもの経験や視野を広げるねらいを持って取り組んでいる。また、地域交流の一環として、近隣の高齢者施設を訪問し、お年寄りの方に手遊びや歌などを披露して喜んでもらう体験をしている。さらに、交番や消防署を訪れ、警察官や消防士から話を聞いたり仕事の様子を身近で見せてもらう体験をしている。地域の様々な人々との交流を通じて、子どもの生活環境の面的及び人的な広がりを支援している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	法人全体で職員からの提案を公募し、年間行事計画に反映する仕組みを整えている	
内容①	子どもの主体性を引き出す保育の担い手となる職員自身が、子どもにとって必要な経験とは何かを自分の頭で考え、実行する力を身につけるために、年間指導計画を策定するプロセスに職員からの提案を反映する制度を設けている。行事や体験活動に関する職員からの提案内容を法人全体で共有し、それを踏まえて自園で実施したい行事や活動について職員が各園の年間計画策定会議でプレゼンテーションを行い、協議のうえ決定している。決定までの流れや手順を法人のマニュアルに明示し、標準化を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、実践的な内容のスキルアップ講座を催している	
内容②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、現場の職員が中心となって実践的な内容のスキルアップ講座を催し、職場や職種を超えて共に学び合う機会となっている。講座の内容は多岐にわたり、その数は年間で100を超えている。職員の自発性に基づく就業時間外の研修ではあるが、主体的な学びを重視する法人の人材育成の仕組みにおいて核をなす取り組みとなっており、本社の管理部門がその運営を全面的にサポートしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	毎日の戸外遊びや畑仕事を通して心身の発達を促している	
内容③	園の目標である「自然の中でたくさん遊び原体験をする」を都会の中でも実施することを心掛けている。毎日、午前と午後に散歩に出かけ、毎週園のバスに乗って郊外の系列園の畑に出かけるなど、自然の中での体験を多く取り入れている。子どもたちは、畑では土に触れる、野菜に水やりをする、昆虫を発見するなど、都会では味わえない体験をしている。月1回の遠足の日を設け、少し遠くまで歩いて出かけたり、園のバスで行くこともある。また、雨の日もレインコートや長靴を履いて園の周りの散歩をすることもあり、様々な自然を経験している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが自然の中で体験を通して成長することを重視し、乳幼児期のうちから戸外遊びを日常化することに取り組んでいる
	内容	「自然の中でたくさん遊び、原体験をする」ことを保育目標の一つに据え、乳幼児期のうちから戸外遊びを日常化することに重点的に取り組んでいる。毎日、午前と午後近隣の公園等に散歩に出かけており、午前中の戸外活動は出発時刻の目標を9時と定め、近隣の公園まであえて迂回ルートを経由して子どもの歩行距離を確保するとともに、大型遊具等を使った公園での遊びの時間も十分とって、子どもの体力と運動能力の向上につなげている。また、毎週園のバスに乗って郊外の系列園を訪れ、子どもが畑に出て土や野菜に触れる体験を楽しんでいる。
2	タイトル	地域住民との交流を通じて子どもの生活環境の広がりを支援するとともに、地域で子どもを見守り育てる環境をつくることに取り組んでいる
	内容	「物おじせず誰とでも目を見て話ができる」ことを保育目標の一つに掲げ、年間計画に基づき、週に一回、子どもたちが近隣の商店街を訪れ、魚屋で実際に魚をさばいている様子を見たり、八百屋で野菜を購入するなどの経験を重ねている。また、近くの高齢者施設を訪問し、初めて会ったお年寄りの方たちの前で手遊びや歌などを披露し喜んでもらう経験を通じて、子どもの非認知能力の向上を意図している。地域の様々な人々との交流を通じて、子どもの生活環境の広がりを支援するとともに、地域で子どもを見守り、育てる環境をつくることに取り組んでいる。
3	タイトル	法人本部にコンプライアンス担当を置き、組織全体で法令遵守と子どもの人権の尊重に高い意識を持って取り組んでいる
	内容	法人本部にコンプライアンス担当を置き、各事業所における日々の利用状況やサービス提供体制、障害児通所給付費の算定や個別支援計画の見直し期間等について、法令の要件を満たしているかを一元的に管理する仕組みを整えるとともに、3か月ごとの法人の内部監査により、法令等に沿った運営を行っているかを点検している。また、法人共通のチェックリストに沿って、職員一人ひとりが子どもの人権を尊重した対応をおこなっているかを振り返る機会を定期的に設けており、法人として法令遵守と子どもの人権の尊重に高い意識を持って取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもたちがなるべくストレスを感じることなく快適に過ごせる生活空間や環境設定の工夫について、さらなる検討が期待される
	内容	昨年度は子どもの保育環境の整備を重点課題の一つに据え、乳幼児期の子どもの安心感を育む人的環境としての職員の言葉遣いや表情、子どもに対する声掛け等の改善や、子どもがいろいろなことに興味を持ち、自分のペースで考えて遊べるように、室内環境の整備や手作り玩具の作成等に取り組んでいる。しかし、ワンフロアのオープンスペースの中で子どもたちがなるべくストレスを感じることなく快適に過ごせる生活空間や、落ち着いた遊び込める環境の設定についてはまだ工夫の余地が残されており、改善に向けたさらなる検討が期待される。
2	タイトル	アセスメント関連情報から子どもの支援ニーズを総合的に捉え、個別の保育計画の作成や見直しにつなげる仕組みを確立することが期待される
	内容	児童票を使って子ども一人ひとりの発達状況を年齢もしくは月齢ごとの項目に沿ってチェックするとともに、子どもの姿の変化等を定期的に記録している。ただし、個別保育計画の作成にあたり、子どもの発達状況や健康状態、家庭の養育環境等の情報から保育ニーズや支援課題を分析・検討し、保育のねらいを定めるアセスメントのプロセスにおいて、児童票の位置づけは必ずしも明確になっていない。前月の子どもの姿の振り返りに加えて、子どもに対する支援課題及びその変化を総合的な観点から捉え、個別の計画につなげる体系的な仕組みの確立が期待される。
3	タイトル	前年度の取り組みの振り返りで洗い出された課題に対する方策が当年度の事業計画の中で十分に展開されておらず、今後の改善が期待される
	内容	保育スタッフは非常勤職員を含め全員が有資格者で構成され、職員集団のポテンシャルは一定以上の水準にあると考えられる。しかし、昨年度の事業計画に対する園の振り返りでは、職員の知識やモラルに関してシビアな評価が目立っている。実際には、職員の意識の問題というよりは、むしろ労働環境や主体的な学びを深める外部研修の参加機会等、組織運営上の観点から原因を探ることが必要と思われる。また、前年度の取り組みの振り返りにおいて洗い出された課題に対する方策が、当年度の事業計画の中で十分に展開されておらず、今後の改善が期待される。